

2024年度 東京応化科学技術振興財団 個別報告書 01

開催日時	2024年6月17日～22日
開催場所	アトリエ・アルケミスト
実施内容	土の中の生き物

人数	土の中の生き物										
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計	
17日(月) 16:30-17:45		2	1	2	1	2					8名
19日(水) 16:30-17:45	1	1	3	2	1	1					9名
20日(木) 16:30-17:45			3		2						5名
21日(金) 16:30-17:45	1	1	2	1	2	2					9名
22日(土) 13:00-14:45	1	1		1	1	1					5名

スタッフ 各日 2名 (実員数 6名) アルケミスト 各日 2名

5日間を通して参加者は36名。3年生9名、5年生7名、4,6年生6名、3年生5名、1年生3名の構成であった。そのうち一人で2回参加した虫好き(虫博士の異名)の児童もいた。全般に好天に恵まれたが、21日は朝から雨模様だったが、土掘りの時には薄日が差すくらいとなり、多湿のせいか虫が地表近くに出てきていて豊富であった。

・座学のアクティブラーニングで、日によって差があるが、子どもたちは活発に意見、感想などを発表していた。土の中の生物の多様さに驚いた様子であった。

・庭に出て土を掘り虫集めの段階では、最初躊躇気味の子が夢中になる様子、何かが見つかる度に悲鳴まであげても、採取に熱中する子、ただただ傍観してる子も。また、苦手の虫が観察してるうちにかわいく見えたり、虫を手にとって見たり、それを私の手に乗せると手を差し出す子もいて、反応はいろいろだった。



・部屋に戻って、シャーレの中に入れた虫を観察し写し描く力はさすがに造形美術に関心のある子たちで見事なものがあった。

ルーペ、顕微鏡、USB顕微鏡での観察描画は関心が強く、小さな虫の足が巨大な武器に見えて歓声を上げる児童もいた。足の動きや触角の動きなどがよく観察でき、引き込まれているようだった。

・土の中の生き物の存在の痕跡を探る、パックテストによるリン酸検出の実験は、学年層の広がりも大きく、その意義を問うのは難しいと思う。このような実験法があるということを知る一つの機会ととらえることもできる。パックテストについては教材として検討する必要があると思う。

・美術造形に関心が強い児童に、科学的観点から自然を見る目を養おうというアトリエ・アルケミストからの提案で始まった協働事業、コロナ禍のさなかから始まり5年になる。振り返りまとめる良い機会かもしれない。

